様式第17（第22条及び第90条関係）

（硫黄全量
（硫化水素　成分試験記録表
（アンモニア）

試料ガス	測定場所	測定者	測定日　年　月　日
ガスメーターの番号			ガスメーターの補正係数 f ＝

測定時間	ガスメーター又は計量槽の読み	試料ガスの温度（ガスメーター又は水槽附属温度計）	ガスメーター又はガス捕集袋の圧力		気圧計の読み	室温（気圧計附属温度計による。）
			水柱	キロパスカルに換算		
開始　時　分	リットル	度	ミリメートル	キロパスカル	キロパスカル	度
終了　時　分	リットル	度	ミリメートル	キロパスカル	キロパスカル	度
	試料ガス量 V_1＝ リットル	平均 tg＝ 度		平均 P_1＝ キロパスカル	平均 B＝ キロパスカル	度

気圧換算の補正値 a ＝ キロパスカル	Bを零度に換算した圧力　$B_0 = B - a$ ＝ キロパスカル
tgにおける水蒸気の飽和圧力 S ＝ キロパスカル	
試料ガス量換算係数　$F = \frac{273.15}{101.32} \times \frac{1}{T} \times P \times f$	
標準状態における乾燥試料ガス量 $V = V_1 \times F$ ＝ リットル	ガスの絶対温度 $T = tg + 273.15$ ＝ ケルビン

乾燥ガスの絶対圧力
P＝（ガスメーターを使用した場合）
$B_0 + P_1 - S$
＝ キロパスカル
（ガス捕集袋用ガス計量装置を使用した場合）
$B_0 - P_1$
＝ キロパスカル

硫黄全量

＜過塩素酸バリウム沈殿滴定法＞
使用した滴定溶液
0.005mol/Ｌ　過塩素酸バリウム、
0.005mol/Ｌ　塩化バリウム
滴定溶液の使用量
　a ＝ ミリリットル
空試験の滴定溶液の使用量
　b ＝ ミリリットル
滴定溶液のファクター
　f ＝
標準状態における乾燥試料ガス量
　V ＝ リットル
硫黄全量
$= \frac{0.160 \times f \times (a - b) \times 10}{V}$
＝ グラム／立方メートル

＜ジメチルスルホナゾⅢ吸光光度法＞
検量線から求めた発色溶液中の硫黄量
　A ＝ ミリグラム
標準状態における乾燥試料ガス量
　V ＝ リットル
硫黄全量
$= \frac{A \times 25}{V}$ ＝ グラム／立方メートル

＜イオンクロマトグラフ法＞
硫酸イオン濃度
　a ＝ ミリグラム／ミリリットル
空試験で求めた硫酸イオン濃度
　b ＝ ミリグラム／ミリリットル
標準状態における乾燥試料ガス量
　V ＝ リットル
硫黄全量
$= \frac{0.333 \times (a - b) \times 250}{V}$
＝ グラム／立方メートル

＜微量電量滴定式酸化法＞
分析試料中の硫黄表示値
　B ＝ ナノグラム
試料注入量
　V ＝ ミリリットル
試料温度（室温）
　t ＝ ℃
平均補正係数
　F ＝
硫黄全量
$= \frac{B}{V \times \frac{273.15}{273.15+t} \times F} \times 10^{-3}$
＝ グラム／立方メートル

＜紫外蛍光法（バッチ法）＞
分析試料中の平均硫黄表示値
　B ＝
試料注入量
　V ＝ ミリリットル
試料温度（室温）
　t ＝ ℃
一点検量線法を使用した場合
校正係数
　K ＝
硫黄全量
$= \frac{B}{V \times \frac{273.15}{273.15+t} \times K} \times 10^{-3}$
＝ グラム／立方メートル
多点検量線法を使用した場合
検量線の勾配
　Ss ＝
硫黄全量
$= \frac{B}{V \times \frac{273.15}{273.15+t} \times Ss} \times 10^{-3}$
＝ グラム／立方メートル

＜紫外蛍光法（連続流通法）＞
二酸化硫黄標準ガスで校正した場合
測定値
　M ＝ ミリグラム／立方メートル
触媒効率
　E ＝ %
硫黄全量
＝ グラム／立方メートル

＜酢酸鉛試験紙法＞
反応試験
　変色を認める
　変色を認めない

＜炎光光度検出器付ガスクロマトグラフ法＞
硫化水素 ＝ グラム／立方メートル

硫化水素

＜よう素滴定法＞
0.1mol/Ｌ　チオ硫酸ナトリウム溶液の使用量
　a ＝ ミリリットル
空試験の0.1mol/Ｌ　チオ硫酸ナトリウム溶液の使用量
　b ＝ ミリリットル
0.1mol/Ｌ　チオ硫酸ナトリウム溶液のファクター
　f ＝
標準状態における乾燥試料ガス量
　V ＝ リットル
硫化水素
$= \frac{1.704 \times f \times (b - a)}{V}$
＝ グラム／立方メートル

＜メチレンブルー吸光光度法＞
使用した吸収瓶
　吸収瓶、全量発色瓶
検量線から求めた発色溶液中の硫化水素量
　A ＝ ミリグラム
標準状態における乾燥試料ガス量
　V ＝ リットル
吸収瓶を使用した場合
硫化水素
$= \frac{A \times 5}{V}$ ＝ グラム／立方メートル
全量発色瓶を使用した場合
硫化水素
$= \frac{A}{V}$ ＝ グラム／立方メートル

アンモニア

＜中和滴定法＞
0.05mol/Ｌ　硫酸溶液の使用量
　a ＝ ミリリットル
空試験の0.05mol/Ｌ　硫酸溶液の使用量
　b ＝ ミリリットル
0.05mol/Ｌ　硫酸溶液のファクター
　f ＝
滴定用試料溶液の分取比
　B ＝
標準状態における乾燥試料ガス量
　V ＝ リットル
アンモニア
$= \frac{1.703 \times f \times (a - b)}{V \times B}$
＝ グラム／立方メートル

＜インドフェノール吸光光度法＞
標準状態における乾燥試料ガス量
　V ＝ リットル
一点検量線の場合
試料溶液の吸光度
　A ＝
アンモニアの標準液の吸光度
　As ＝
アンモニア
$= \frac{\frac{A}{As} \times 0.25}{V}$
＝ グラム／立方メートル
多点検量線の場合
検量線から求めた発色溶液中のアンモニア量
　A ＝ ミリグラム
アンモニア
$= \frac{A \times 25}{V}$
＝ グラム／立方メートル

＜硝酸銀—硝酸マンガン試験紙法＞
反応試験
　変色を認める
　変色を認めない

＜イオンクロマトグラフ法＞
アンモニウムイオンの濃度
　a ＝ ミリグラム／ミリリットル
空試験で求めたアンモニウムイオンの濃度
　b ＝ ミリグラム／ミリリットル
標準状態における乾燥試料ガス量
　V ＝ リットル
アンモニア
$= \frac{0.944 \times (a - b) \times 250}{V}$
＝ グラム／立方メートル